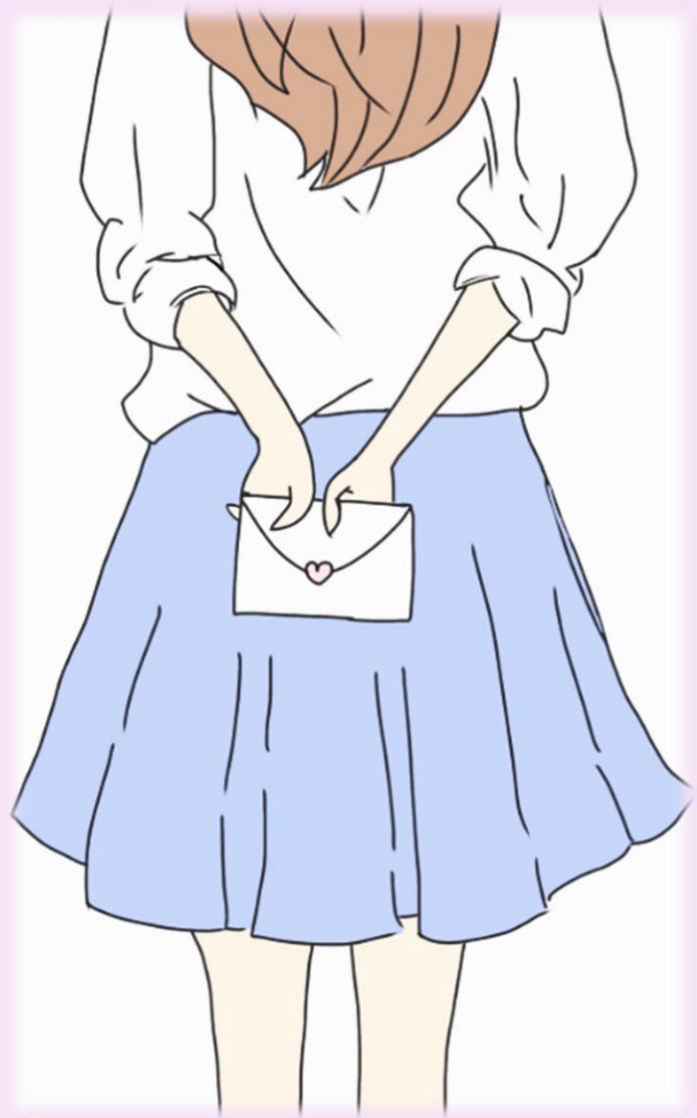


自分流枕草子

5組29番 T.H

春は初恋。未だわからぬその心地
はをかし。胸の弾む新しき春来たり。
景色も心地も頬も桜色にうつろふ折
節。春の暖かき風に吹かれ揺るる想
ひ。新しき一年は春色より始まる。





夏は恋実る。昼の暑きも想ひは
熱く夜の涼しきも想ひは熱し。見
たる際は暑苦し。想ひ想はるる際
はいと涼し。恋は初々しき春色よ
りけざやかなる夏色へとうつろひ
ゆきき。





想秋心関薄な
ひ風地係くほ秋
はにもはな諦は
い吹葉いりめ失
たかもかゆら恋。
づれうなけれ。
らさつるるぬ清
なりうろ時恋想き
り。ざひもよひ。涙
う。落難し。を流
しくゆくを人うし
くなる。かとのやう
る。し。のうつ



冬は新しき恋。こしかたのことは振り切りて新しき恋を始めむ。またさらすとも進みゆかむ。恋は楽しむがよし。女の生きがありは恋といふとも過言ならず。ときじくうつろふ恋の色はいとをかしくさらなれど楽し。